

# グリーン経済シンポジウムin群馬

事務局

去る12月2日(土)、群馬県前橋市内の群馬県庁内ビジターセンターにおいて、「グリーン経済シンポジウムー持続可能な社会を支えるグリーン経済10の提言-in群馬」が環境文明21群馬支部の柴山徳一郎さんたちのご尽力により開催された。

当日は、環境文明21グリーン経済部会が、まとめた「グリーン経済を成り立たせるための10の提言(「食べる」、「働く」、「買う」、「支える」)を紹介した上で、鈴木克彬氏(群馬県環境アドバイザー連絡協議会代表)、青木勝氏(群馬県環境・森林局環境政策課次長)、高橋房雄氏((株)高特代表取締役、NPO法人日本環境土木工業会メンバー)に、当会の加藤三郎代表、藤村コノエ専務理事が加わり、パネルディスカッションが行われた。以下に、その概要を報告する。

## 話題提供

### 鈴木克彬氏

環境文明21のグリーン経済を成り立たせる10の提言は素晴らしいと思うが、実際にどうかと考えると大変な問題もある。県内に環境アドバイザーは400名おり、その集まりや専門部会、地域部会などで話し合うと、県内の環境問題として3つほど挙げられる。

①ごみの発生抑制への誘導。前橋市のごみ処理費用は37~40億円で、これをどうにかして減らしていきたい。ヨーロッパに行くと、日本は分別、リサイクルを細かく行っていると驚かれる。しかし日本の包装ごみはドイツの10倍以上。また家庭ごみの6~7割が包装ごみ。メーカーが大量に出した包装ごみをリサイクルで処理しているのが日本の現状だ。ドイツでは1994年に循環経済法等を作り、ごみの発生抑制とごみの供給者責任を徹底した。

②森林の荒廃化ストップ。群馬県は7割が森林。森林は水や空気の供給源。また森林は災害を防ぐ力を持っている。群馬県では森林の間伐がうまくいっていない。森に手を入れてもお金にならない。また森林の後継者がいない。

③地球温暖化防止対策の実行の具体化。知識だけはあるが、行動が伴っていない。現実は何をするかが大事。

### 青木勝氏

私は環境・森林局で仕事をしており、環境と森林が一緒というのは全国的にも珍しいとのこと。近年、森林の持つ役割がより広域的に変わってきた。特にその環境面の役割が重要視されている。地球温暖化対策について、森林という資源を生かしながら取り組んでいきたい。

第2次群馬県地球温暖化対策推進計画(新CO2CO2(コツコツ)プラン、2006年度~2010年度)では、①二酸化炭素の排出削減。増加傾向にある県内の二酸化炭素排出量に歯止めをかけ、減少に転換する。②森林吸収。森林の整備と吸収源の対策を目標としている。この目標は5年間のものだが、地球温暖化対策には多くの時間が必要だ。資源も有限だが、環境も有限。有限の中で、こういった社会や生き方ができるか皆さんと考えていきたい。このような事が地球環境問題の根本にあると思う。行政、企業、市民が一緒になって取り組んでいきたい。

### 高橋房雄氏

仕事は道路の安全土木、斜面緑化などで、会社は渋川にあり、設立35年。会社でも十数年前から環境問題に取り組んでいる。また、ISO9001認証とぐんまスタンダードの認定も受けている。環境問題に取り組めば利益が上がるかと言えば、残念ながら現状では逆だ。

私は先日、ネパールで斜面防災、地震防災国際

シンポジウムに出席した。東南アジアの土木学者からいろいろ話をきいたが、非常に参考になった。

## ディスカッション

**藤村**：10の提言のうち、「地域の個性や伝統を大切にし、それを根っこに持つ地域経済を育てよう」について話を進めたいと思う。そこでまず、群馬の個性、伝統、誇りについて如故か。

**青木**：①海はないが、山がある。群馬の山を元気にする、山を持っている方が手入れをする意欲が持てる環境をつくるのが大切。バイオマスの活用は経済と同時に環境の問題でもあり、その有効利用が大切だ。②群馬は畜産が盛んだ。家畜の排泄物もバイオマス資源として活かすことが、技術的にも経済的にも可能になれば、これからの環境の時代の資源になると思う。

**高橋**：群馬県リサイクル緑化協会などによる「山の日」を作ろうという活動がある。群馬県人は純粹だとも思われている。ボランティアに火がついたら燃える県民性を持っていると思う。さらに、村歌舞伎がある。萩原朔太郎、大手拓次など著名な詩人が出ている。

**鈴木**：群馬の良さは、天気がいい、災害が少ない、物価が安い。また、奈良、岡山について古墳が多い（約1万基）。農産物の直売所が盛んだ。また、グリーンコンシューマー群馬ネットやくらしの会などの活動も活発だ。

**藤村**：人間社会や環境の面で財産がたくさんあるようだが、群馬の経済についてはどうか。

**高橋**：渋川は昔、商店が軒をつらねて大変な賑わいだった。今、商店街は空き地だらけで、夜は一人歩きが怖い程だ。今は郊外の大規模店を中心とした車社会が定着している。大規模店は人間くささがないように思う。経済活動の質が変わったことが人間社会の活動をも変えてしまっている。これは大変深刻な問題だ。

**鈴木**：群馬の誇りは「カカア天下」。これは「オラのカカアは天下一」という所からきている。江

戸時代から群馬は養蚕が盛んで、女性は大変な働き者だった。これも群馬の特徴かもしれない。

**青木**：間伐作業推進プランでは、10年間で4万haの間伐をし、森林に手を入れる計画がある。また、10年間で林業の作業道を1000kmも張り巡らす計画もある。県産材をスムーズに供給するマーケット（県産材センター）づくりも進んでいる。

**加藤**：私たちは精神論でグリーン経済を作ろうと言っているのではなく、市場経済も活用していきたいと考えている。ヨーロッパには風車がたくさんあり、風力エネルギーが活用されている。その理由は、電力会社が風力発電の電気を高く買い取るという政策が出来たから。国の法律の改正は時間がかかるので、群馬は群馬で独自の仕組みを作ることも出来る。

**会場**：今後は環境をテーマにした商売でないと持続できないと思う。

**会場**：群馬ではぐんまスタンダードという簡便に取り組めるシステムがある。あまり細かい取り決めを作らずに、構築しやすいシステムを作った。

**会場**：農業を軽視している傾向を払拭するために、「子供たちが農業体験をするといい」という提言があったが、同様に、廃棄物産業についても体験学習があるといい。

**藤村**：群馬の個性、伝統、誇り、さらには地域経済を育てる上でのアイディアをいくつか頂いた。群馬を元気にするのは群馬に住んでいる皆さん。群馬からいろいろな制度を発信していくことも出来ると思う。

